

## 入社動機 1位は「自分の資格や能力が発揮できそう」 理想の上司、男性はイチローさん、女性は天海祐希さん

当社では例年、3月末から4月にかけて県内企業の新入社員を対象に意識調査を実施しています。しかし、今年新型コロナウイルス感染症の影響により、調査時期を変更して実施しました。

有効回答数は171名で、例年（600人程度）に比べ少なくなっています。そのため、今年のレポートでは前年比較や年次推移についてはコメントしておりません。

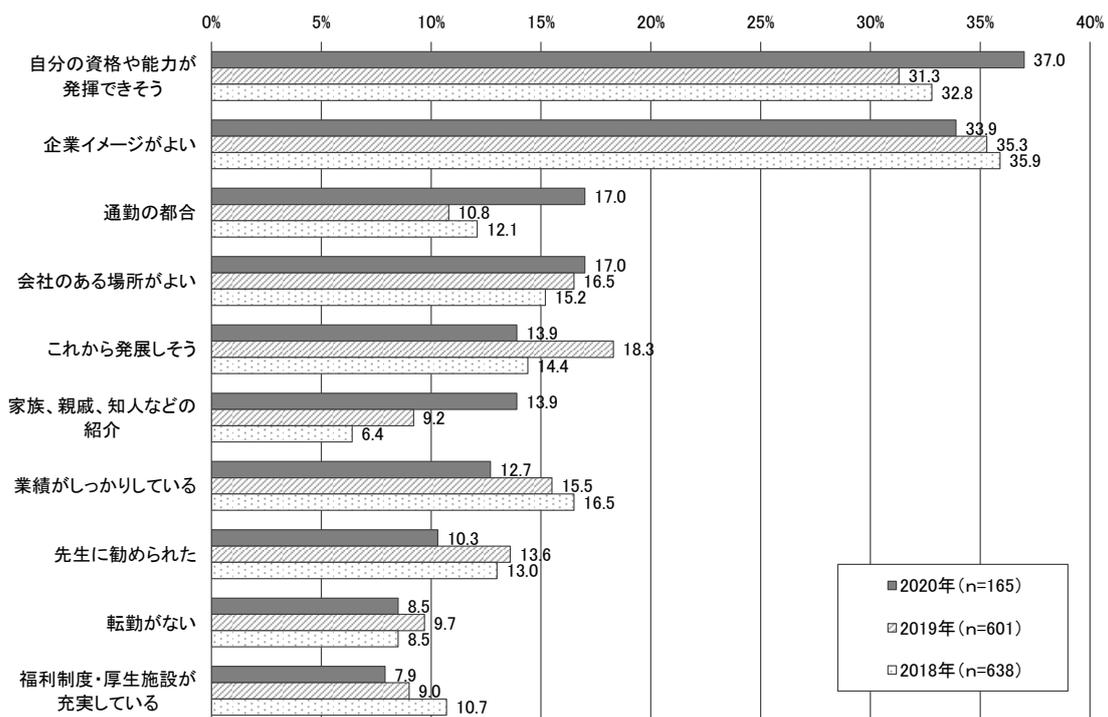
- ◇調査名：「新入社員意識調査」
- ◇調査時期：6月22日(月)～7月6日(月)
- ◇調査対象：当社開催の新入社員研修に参加した新入社員
- ◇有効回答数：171人〔男性104人（60.8%）、女性67人（39.2%）〕

調査の結果、入社動機は「自分の能力や資格が発揮できそう」がトップとなりました。また、4割超が就職した企業に「定年まで勤めたい」と回答するものの、「転職・独立」に関心を持つ人も4割弱となりました。仕事とプライベートのバランスについては、「プライベート優先（「どちらかといえば」を含む）」が約8割にのびりました。

### ▶入社動機は「自分の資格や能力が発揮できそう」が約4割

「入社を決めた主な動機」（複数回答）は、「自分の資格や能力が発揮できそう」（37.0%）が最も高く、次いで「企業イメージがよい」（33.9%）となった。

図1 入社を決めた主な動機 上位10項目（複数回答）



## ▶自信があるのは「協調性」「忍耐力」、不足しているのは「創造力」

「社会人として『自信が持てる』もの」（複数回答）は、「協調性」（28.9％）が最も高く、次いで「忍耐力」（27.7％）、「集中力」（22.3％）となった。男性は「忍耐力」（35.3％）、「協調性」（22.5％）、「集中力」「体力」（ともに20.6％）の順、女性は「協調性」（39.1％）、「集中力」「継続力」（ともに25.0％）となった。

一方、「社会人として『不足している』もの」（複数回答）は、「創造力」（27.3％）が最も高く、次いで「主体性」（23.0％）、「体力」（22.4％）となった。男性は「創造力」（28.7％）、「主体性」（24.8％）、「責任感」（20.8％）の順、女性は「体力」（26.6％）、「創造力」（25.0％）、「柔軟性」「社交性」（ともに23.4％）の順となった。

図2-1 社会人として「自信が持てる」もの [男女別] (複数回答)

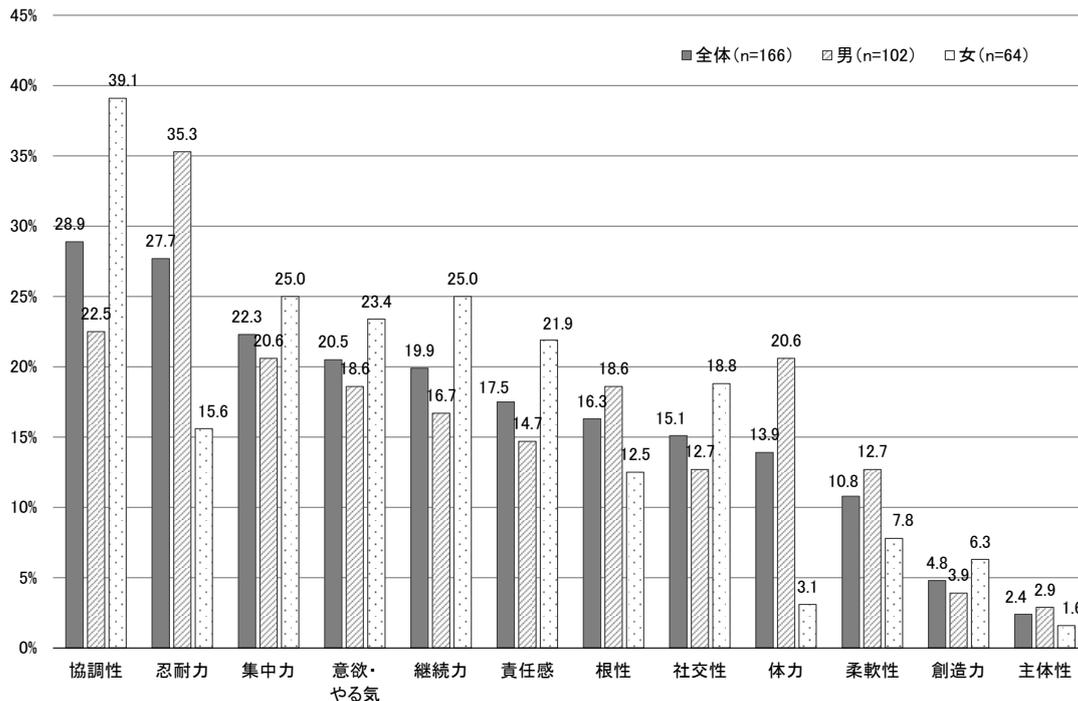
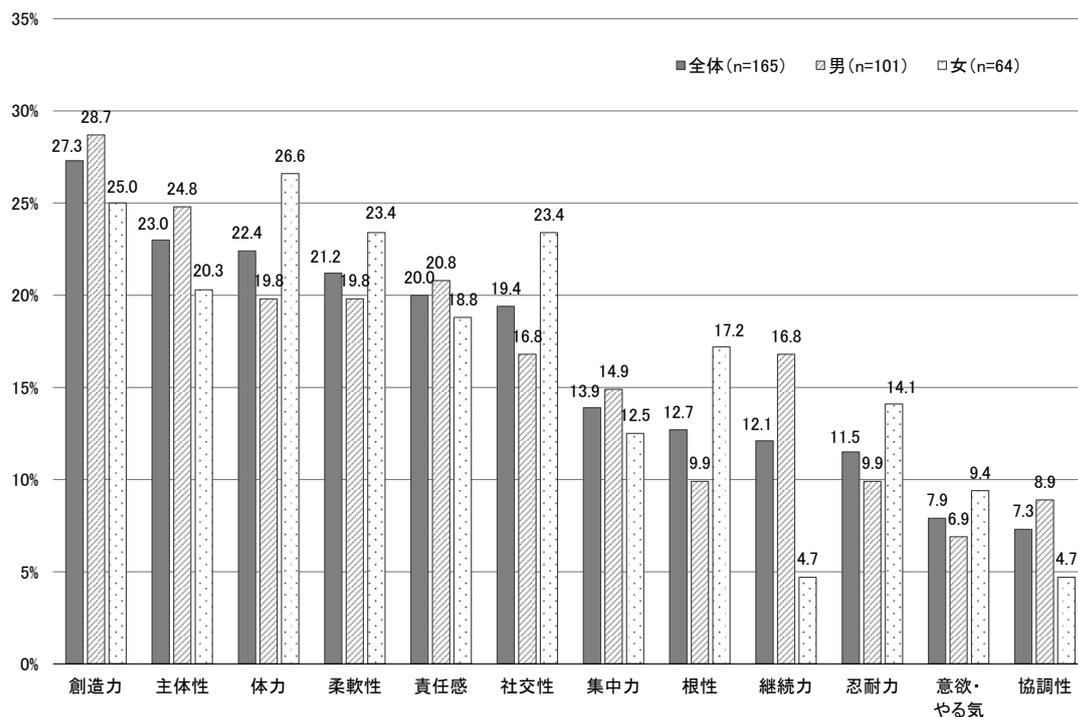


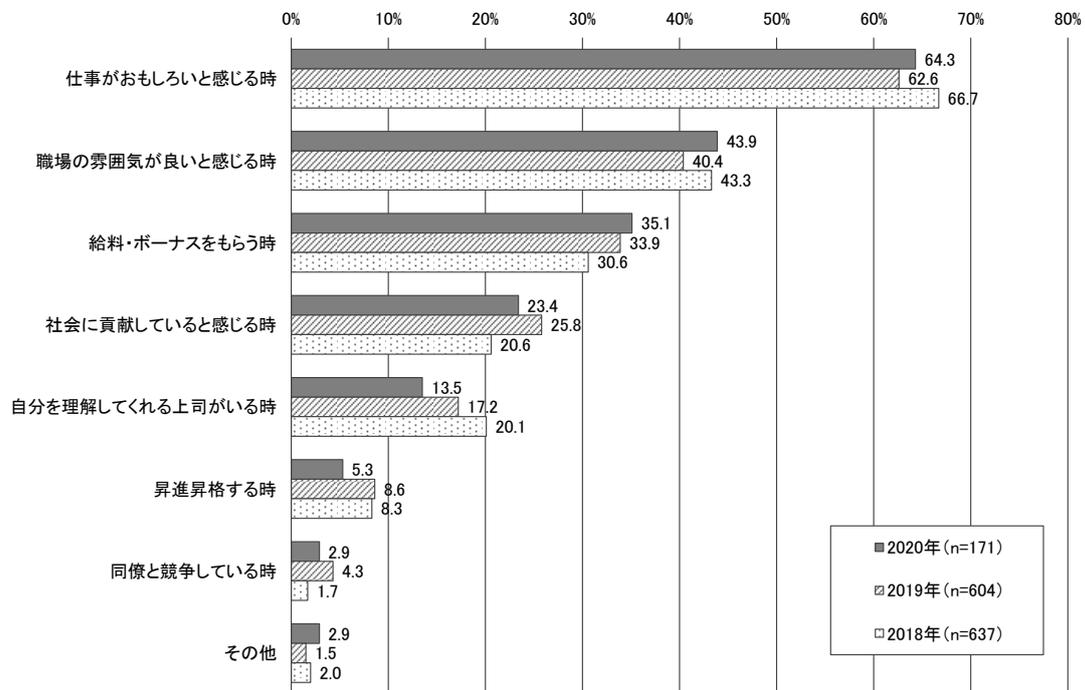
図2-2 社会人として「不足している」もの [男女別] (複数回答)



### ▶ 働きがいを感じるのは「仕事がおもしろいと感じる時」が6割超

「どのような時に働きがいを感じるか」（複数回答）は、「仕事がおもしろいと感じる時」（64.3%）が最も高く、次いで「職場の雰囲気が良いと感じる時」（43.9%）、「給料・ボーナスをもらう時」（35.1%）となった。

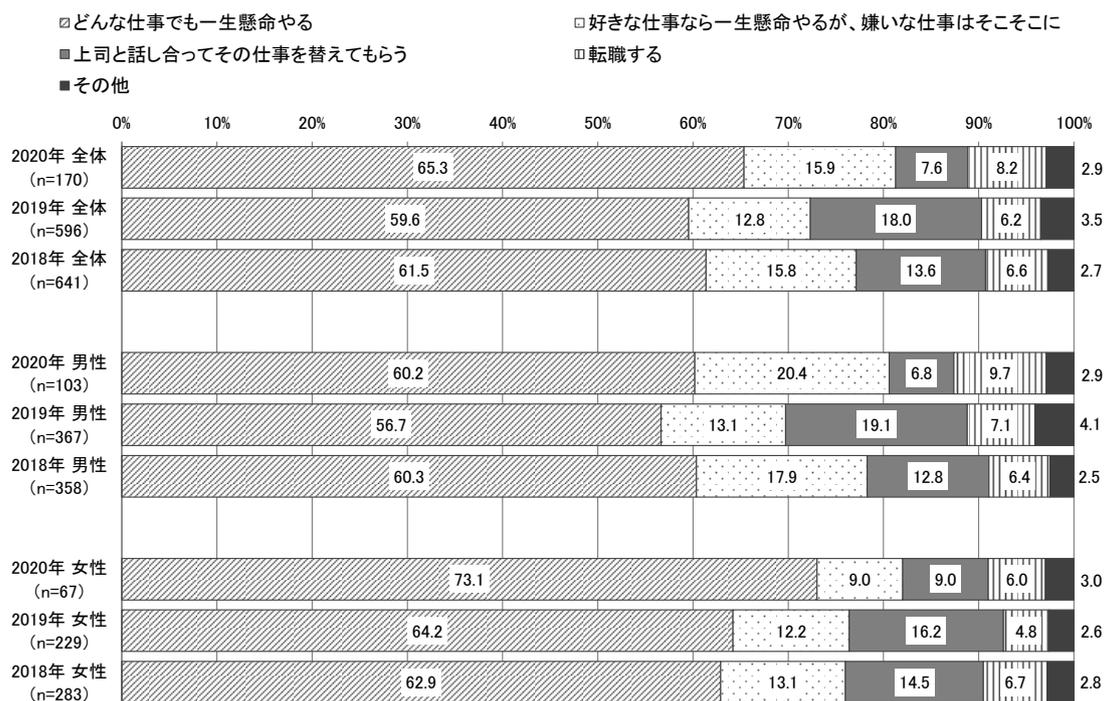
図3 どのような時に「働きがい」を感じるか（複数回答）



### ▶ 「どんな仕事でも一生懸命に」が6割超

「仕事が自分に合わないときはどうするか」は、「どんな仕事でも一生懸命やる」（65.3%）が最も高く、次いで、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」（15.9%）となった。

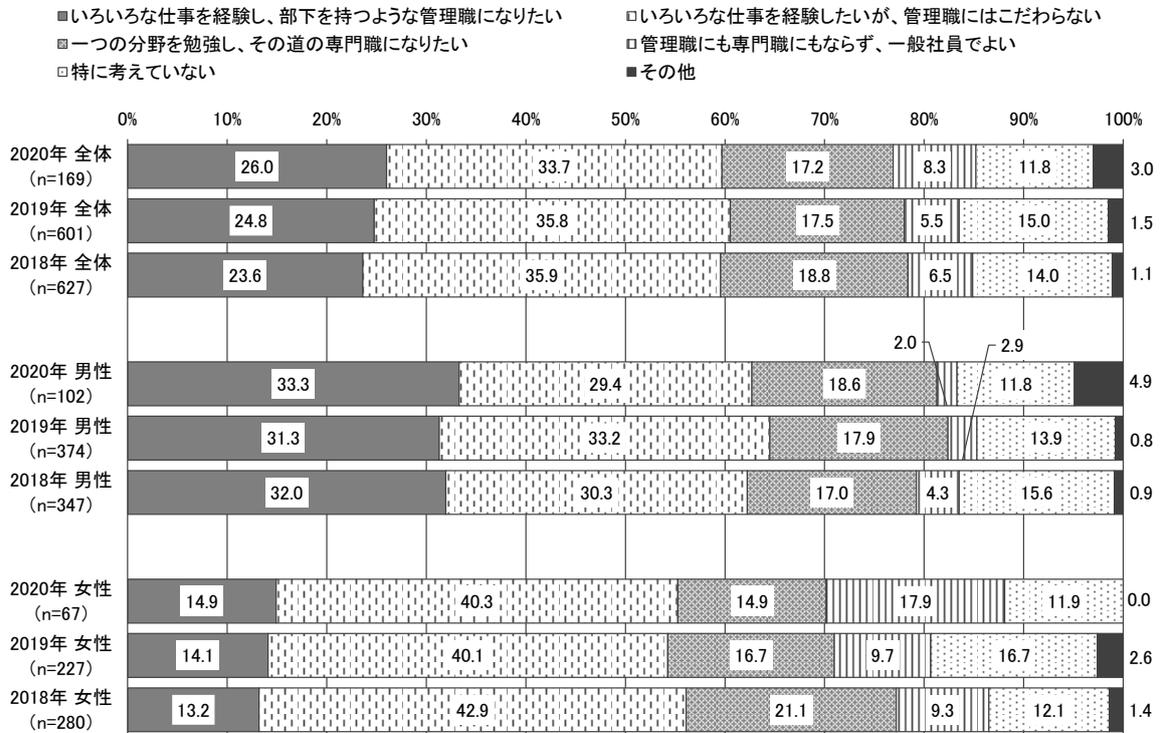
図4 仕事が自分に合わないときはどうするか（複数回答）



## ▶ 社会人として歩みたい道は、「管理職にはこだわらない」

「社会人としてどのような道を歩みたいか」は、「いろいろな仕事を経験したいが、管理職にはこだわらない」（33.7%）が最も高く、次いで「いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職になりたい」（26.0%）、「一つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（17.2%）となった。

図5 社会人としてどのような道を歩みたいか



## ▶ 「定年まで勤めたい」が4割超も、「転職・独立に関心あり」が4割弱

「定年まで勤めたいか」は、「そんたい」（42.1%）が最も高く、次いで「他によい仕事があれば転職する」（31.0%）となった。「他によい仕事があれば転職する」と「いずれ独立したい」を合計した「転職・独立に関心あり」（38.6%）は4割弱を占めた。

男女別では、最多の「そんたい」（＝定年まで勤めたい）は、男性46.2%、女性35.8%となった。女性の「他によい仕事があれば転職する」は「そんたい」と同じ割合。

図6-1 定年まで勤めたいか

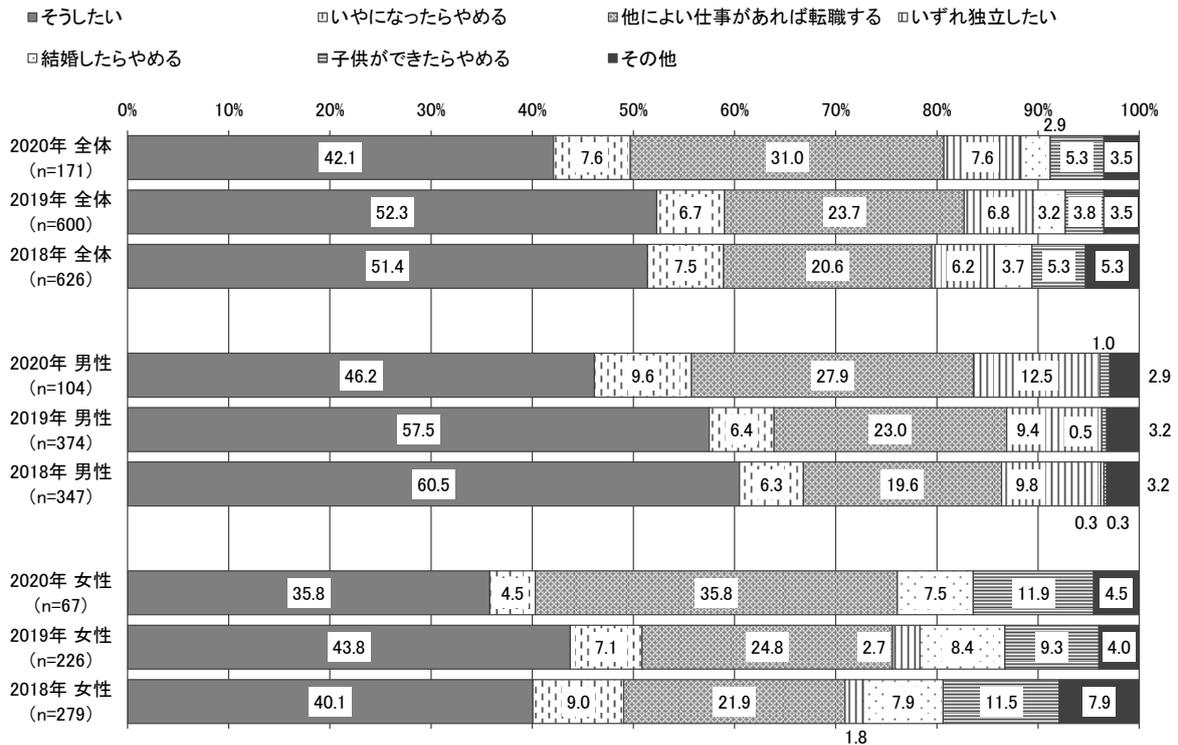
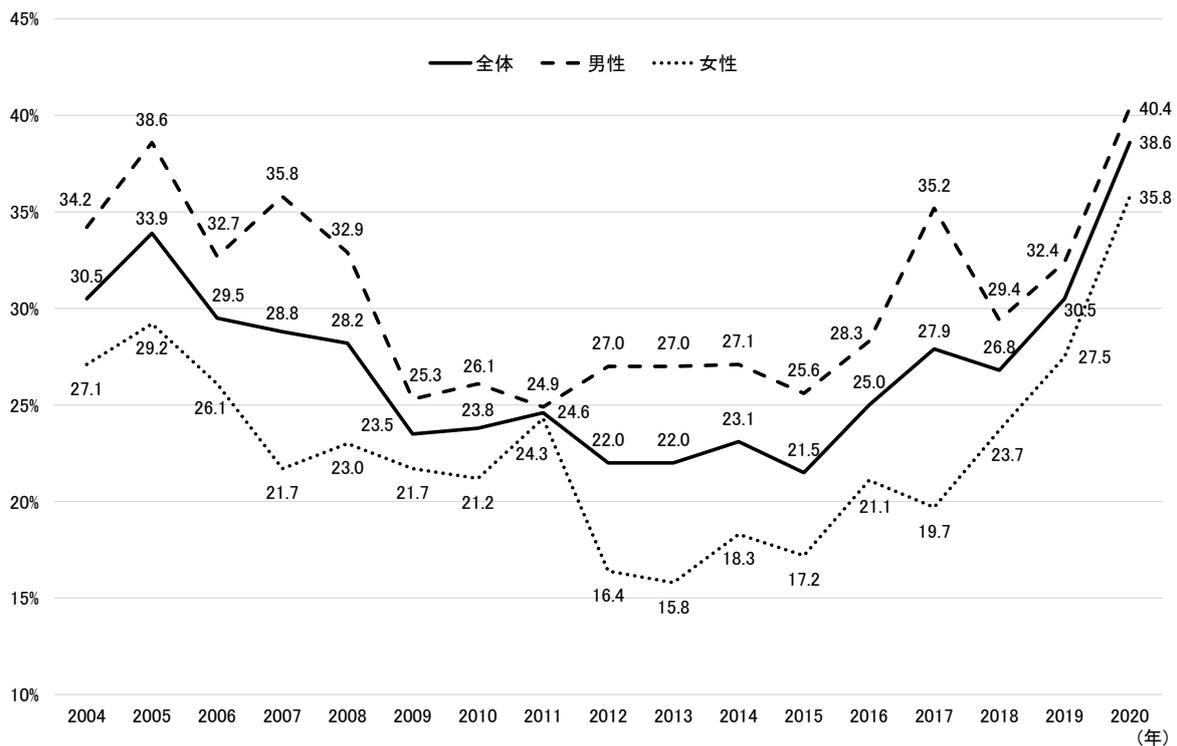


図6-2 「転職+独立」割合の推移（男女別）

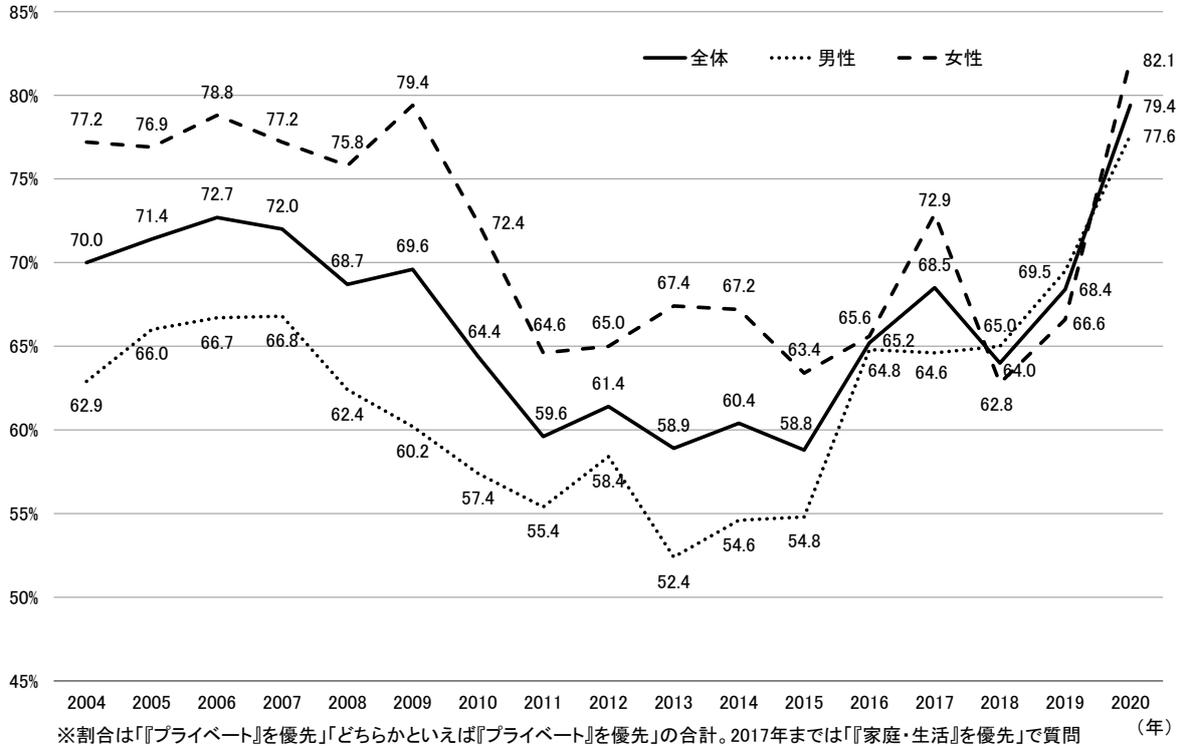


## ▶ 「プライベート優先」が約8割

「『仕事』と『プライベート』のどちらを優先した生活を送りたいか」は、「プライベート優先（「どちらかといえば」を含む）」（79.4%）が約8割となった。

男女別では、男性 77.6%、女性 82.1%で、女性が高い。

図7 「『プライベート』を優先」する割合の推移（男女別）

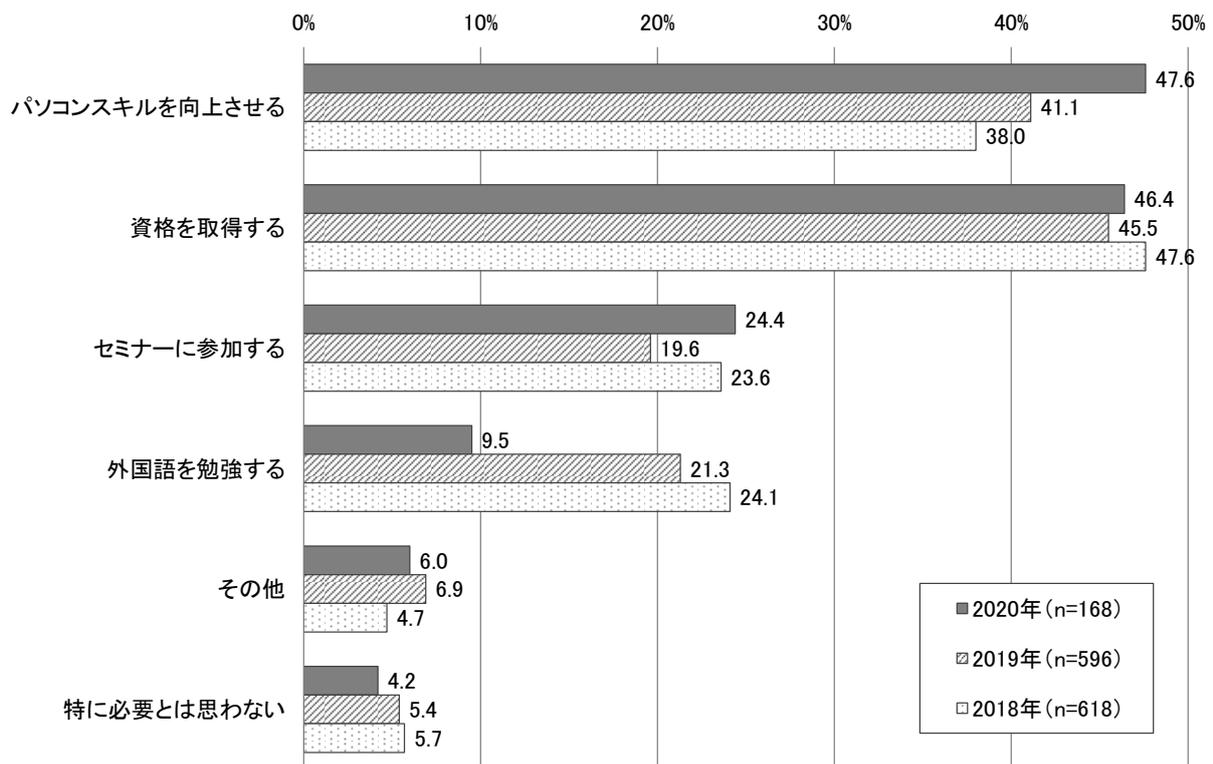


## ▶技能・能力アップに必要なのは、「パソコンスキル向上」「資格取得」が約半数

「自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か」（複数回答）は、「パソコンスキルを向上させる」（47.6%）が最も高く、次いで「資格を取得する」（46.4%）、「セミナーに参加する」（24.4%）となった。

「資格を取得する」では、建築士（一級・二級を含む）、施工管理技士、宅地建物取引士（宅建）や簿記等の検定試験といった、業種によって具体的な回答があった。また「外国語を勉強する」の具体的な記述では、「英語」が11人で最も多く、次いで「中国語」4人となった。

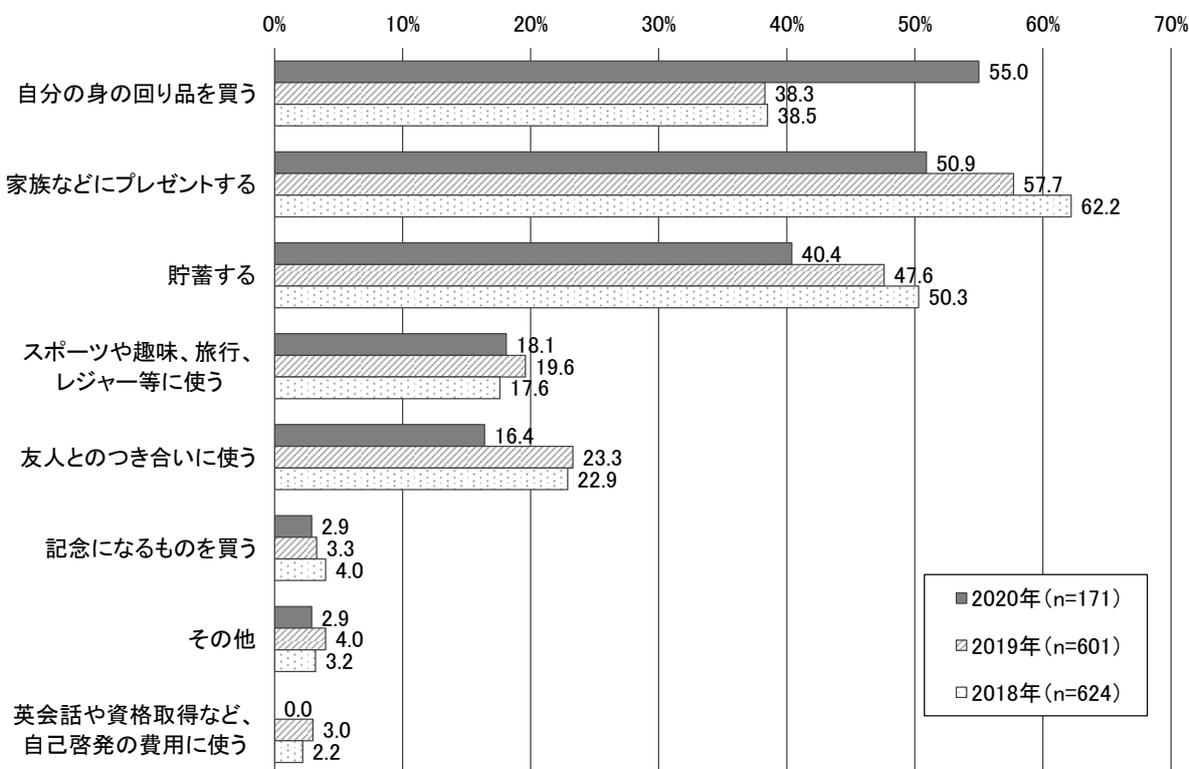
図8 技能や能力アップのために必要だと思う勉強（複数回答）



## ▶初めての給料は、「自分の身の回り品」「家族などにプレゼント」

「初めての給料の使いみち」（複数回答）は、「自分の身の回り品を買う」（55.0%）が最も高く、次いで「家族などにプレゼントする」（50.9%）、「貯蓄する」（40.4%）となった。自分自身の楽しみへの消費や家族への感謝に使いつつ、貯蓄も重視しているようだ。

図9 初めての給料の使いみち（複数回答）



## ▶理想の上司、男性：イチローさん、女性：天海祐希さん

「理想とする上司像を有名人に例えると」（フリーアンサー）に対して、男女1名ずつ回答してもらったところ、男性上司1位は元プロ野球選手のイチロー（鈴木一朗）さん（回答数10人）、女性上司1位は女優の天海祐希さん（同14人）となった。

その理由を、回答した有名人1名につき最大二つまで選んでもらったところ、イチローさんは「率先して手本を見せてくれそう」（6人）、「仕事ができそう」「目標ややり方をはっきり示してくれそう」（ともに4人）となり、天海祐希さんは「仕事ができそう」「面倒見がよく、何でも相談できそう」（ともに5人）となった。

表 理想とする上司像 上位5位（2020年）

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	10	1	天海祐希	14
松本人志	6	2	吉田沙保里	7
明石家さんま	4	3	水ト麻美	6
櫻井翔	4		マツコ・デラックス	4
松岡修造	4	5	石原さとみ	3
ムロツヨシ	4		いとうあさこ	3
			北川景子	3
			二階堂ふみ	3

※男女それぞれ1名をフリーアンサーで回答

以上